平成 30 (2018)年度
卒業・修了予定者アンケート

Ⅰ.分析と提言

2．修了時アンケート（学府：産業マネジメント専攻）

①　基礎データ

31通（前年比８通減）の回答を得られた。

【二年間の総合評価について】

＜教育内容＞

本専攻が提供した教育内容について高い満足度（５及び４評価の合計）を示した学生は87%であり、高い満足度を示していることがわかる。

＜カリキュラム体系＞

本専攻が提供しているカリキュラム体系について高い満足度（５及び４評価の合計）を示した学生は84%であり、高い満足度を示していることがわかる。

＜教育方法＞

本専攻の教育方法について、高い満足度（５及び４評価の合計）を示した学生は、81%であり、高い満足度を示していることがわかる。

＜授業環境（設備等ハード面）＞

本専攻の設備等ハード面について、高い満足度（５及び４評価の合計）を示した学生は、81%であり、高い満足度を示していることを示している。

＜授業環境（運営等ソフト面）＞

本専攻の運営面等ソフト面について、高い満足度（５及び４評価の合計）を示した学生は、87%であり、高い満足していることを示していることがうかがえる。

本専攻の教員の指導について、高い満足度（５及び４評価の合計）を示した学生は、90%であり、非常に高い満足度を示している。

＜総合評価＞

本専攻に在学した２年間の総合評価について高い満足度（５及び４評価の合計）を示した学生は、87%であり、高い満足度が示されている。そこでは、「新鮮で強烈な刺激を受ける機会が多く、大変満足した」などの感想があった。

【プロジェクト演習の評価について】

＊＊＊　現在、プロジェクト演習が選択科目となっているため、アンケートにおいて未記入が生じており、未記入は履修していないものとして取り扱った。＊＊＊

＜内容・方法・プロセス＞

当項目について、高い満足度（５及び４評価の合計）を示した学生は84%であり、高い満足度を示している。

＜結果の出来映え（学生の判断）＞

プロジェクト演習活動及びその結果について、学生自身の高い達成度（５及び４評価の合計）を認識した学生は約65%であり、学生自身としては、ある程度満足している結果がうかがえる。

＜努力したか（学生の判断）＞

学生自身の努力度合いについて､高いレベル（５及び４評価の合計）を認識した学生は74%であり、総じて努力している姿勢がうかがえる。

＜教員の指導内容、的確性、円滑性＞

当項目について、高い満足度（５及び４評価の合計）を示した学生は78％であり、高い満足度が表明された。

＜教員による対応の綿密性、丁寧さ＞

当項目について、高い満足度（５及び４評価の合計）を示した学生は81％であり、高い満足度が表明された。

＜論文審査発表会のありかた＞

当項目について、高い満足度（５及び４評価の合計）を示した学生は81％であった。高い満足度を示していることが示された。

＜総合評価＞

当項目について、高い満足度（５及び４評価の合計）を示した学生は81％であり、高い満足度を示していることが示された。なお、「満足している」「丁寧・親身にご指導いただき大変感謝しています」などの肯定的な意見が出されている。

② 集計結果の概観

【二年間の総合評価について】

多くの学生が二年間の当専攻での「教育内容」には高い満足度を示しているという結果が出ており、それ自体は関係者の努力の賜物であると考えられる。なお、修了時アンケートには、個々の授業名が示されていないこともあり、個別の授業や個々の教育カテゴリーにおいては「前期・後期のFDアンケート」なども加味しながら改善努力を怠らないように心がける必要があると考えられる。

【プロジェクト演習】

プロジェクト演習については、高い満足度が示されている。なお、プロジェクト演習の選択科目化の影響や教育効果については引き続き、学生の状況把握や要望を聞きながら、プロジェクト演習制度の改善努力を怠らない姿勢が必要であると思われる。